機械学習の仕組みの指導と 機械学習を用いた問題解決の授業実践

埼玉県立川越南高等学校 春日井 優

なぜ機械学習?

人工知能の進展

- マイケル・オズボーン博士の予測(雇用の未来,2013年) 47%の仕事があと10~20年でなくなる可能性
- ・ 次期学習指導要領改訂の経緯にも記載(中学校総則編) 「人工知能の飛躍的な進化」を挙げている 人間の強みの再認識
 - ・人工知能の思考に目的を与える
 - 目的のよさ・正しさ・美しさの判断ができる

次期「情報 Ⅱ 」のデータサイエンスを意識した内容

- ・ データサイエンスの分野
 - 統計
 - データマイニング
 - 機械学習
 - 人工知能

などがあるが、機械学習を対象とした

教材の選定

機械学習

教師あり学習

- 分類(SVM, <u>単純ベイズ分類器</u>など)
- 回帰(線形回帰など)
- ニューラルネットワーク

教師なし学習

- 分類(決定木・k平均法など)
- 主成分分析

半教師あり学習 強化学習 機械学習による分類

自分好みにカスタマイズ できるペンが欲しい







音声認識

音声合成

コルトを

機械学習の指導

一斉学習

機械学習の仕組みの理解、機械学習を用いる技能の習得

自然言語処理として、次の手法を指導した(処理はPythonによる)

tf-idf法

単語出現頻度(Term Frequency)と逆文書頻度(Inverse Document Frequency)の2つの指標を基に計算される値によって、重要語の抽出を行う

ナイーブベイズ分類器(単純ベイズ分類器)

条件付き確率の考えから導かれるベイズの定理に基づいて、 文書がどのカテゴリーに属するかを分類する手法

Word Cloud(機械学習ではないが可視化する手法として) 特徴語に応じて文字の大きさを変え、ランダムに配置して視覚的に 捉えることができるようにする手法(生徒の成果物を参照)

いずれの手法も、語句の出現頻度により求められる

仕組みからわかること

機械学習の仕組み

- ・ 確率的な考え方に基づき、出現回数の数値から 算出された値で結果を導いていること
- プログラムに与えたデータの品質により、 結果が変わること
- → 『コンピュータが導く結果を鵜呑みにせず、 批判的に捉える必要がある』という見方

コンピュータと人間の役割

- ・ 単純な処理は圧倒的にコンピュータが有利
- コンピュータが出力したものの意味や価値は 人間による判断が必要であること
- → 人工知能が進展した際に人間が果たすべき 役割を考えたり、人間にとって有用な活用を 考えることの重要性を知る

生徒の成果物

発表スライド(1) ボールペンの特徴語と分類器の活用(抜粋)









発表スライド② 関東のイルミネーションの特徴語と分類器の活用(抜粋)







